

## ごみ処理施設の運営と取り組み

### 東京都多摩清掃工場

東京都多摩ニュータウンのエリアのごみ処理工場です。鹿追町でもごみ処理が緊急の課題であり、埋め立て方式かそれ以外の方法が議論が始まっていますが、大都市での処理状況を視察してきました。

この工場は日量400tの処理能力があり、焼却熱による発電で年間1億2千500万円の売電収入と、隣接する公共施設に熱を供給しているとのことでした。また、焼却灰の一部をセメント原料として利用し、残りは最終処分場での処理であるが後7年で満杯になるとのことで、次の新設は平成30年とのことでした。いずれにせよ本町とはスケールが違いますが、やはり今後のごみ処理はこの方法を参考にすべきと皆感じた次第です。



## 美術館の運営管理

### 横浜市馬の博物館

国内初の競馬場の跡にそれらを記念した博物館です。同じ「馬」という縁で神田日勝記念美術館との交流があり今回の視察となりました。おりしも小田原北条氏の企画展が行われており、皆でじっくり鑑賞し歴史への思いをかみ締めてきたところです。



## 認定子ども園の取り組み

### 東京都石浜橋場こども園

鹿追町でも幼保一体化が以前より議論されていますが、この施設は台東区石浜幼稚園と隣接する橋場保育園とにより平成20年に開設された公設公営の幼保連携型の認定こども園です。1、2歳児が橋場保育園、3、4、5歳児が石浜幼稚園での保育となっています。それぞれ綿密なカリキュラムによって運営されていますが、やはり問題として感じるのは国の所管省庁が異なり、保育士、幼稚園教諭といった資格制度、また制度面での統一が進まなければこども園として潤沢な運営に疑問符がつくというのが感想でした。



総務文教常任委員会は平成23年11月14日～17日までの間、「国際理解教育」・「新聞教育の役割」・「ゴミ処理施設の運営」・「認定こども園」等をテーマとする、東京都内において所管事務調査を実施しました。

## 国際理解教育

### 東京都世田谷区立梅丘中学校

梅丘中学校は全国新聞教育研究協議会会長で鹿小での研究会にも参加されていた八王子市立榎原中学校校長の木野村雅子氏の紹介と同席により最初に訪れた学校でした。

この学校の特徴として世田谷区帰国子女、外国人受入校であり、英語教育を軸とした国際理解教育に重点をおいている点が上げられます。特に英語でスピーチできる生徒の育成に全教員で取り組んでいるとのことであり、習熟度別に3コースでの英語学習を行っており、さらに英語力の向上には十分な国語力の充足の上にあるとお話でした。また、日本の伝統文化の理解を深めるために、狂言、雅楽、歌舞伎鑑賞を行っているとのことであり、鹿追とは若干教育環境が違って



いますがカナダ学による英語教育に取り組んでいる鹿追町の教育との類似点を見出すことにより、さらなる教育環境の充実にたいへん参考になる研修でした。



## 新聞教育の役割

### 東京都北区十条小学校

十条小学校での研修は新聞教育の状況と効果についての研修でした。このことは子供が新聞を通して広く社会に対して興味を持ち、考える機会を持つことにより、その後の子供の人格形成に大きく影響を与えるものと思われます。新聞を使った授業も参観させていただき、児童がそれぞれ興味のある分野のスクラップ作りに熱中している姿が印象的でした。また、特徴として中国籍の児童が4割前後在籍し、また4割程度が単身世帯であり、新聞を取っている家庭も4割程度であるとのことでした。鹿追町の状況とは若干異なりますが同じく新聞教育を実践しており今後それぞれの交流のなかで、さらに充実した教育になることを期待するものでした。

